

# ぶらす

出居清太郎ワールドへのご招待

No.100  
2015・春

誠を捧げる 思いやり

(1)「どうしたらよいでしょう」と相談する人があったので、「なってくることを感謝して受け取りなさい」といふこと、「それは身が亡びてしまいます。なってくることを、どうすれば回避できるか、その相談にきているのです」といふ。

柿の実がなつた、みかんがなつたという。その「なつた」という意味は、種がまかれ、芽生え、成長し、花が咲いて実つたことをいふ。病気になつた、貧乏になつた、困つたことになつた 人生において「なつて

くる」ことも、すべて種がある。それが時期を得て「なつてきた」のである。この道筋を悟れば、喜んで、勇んで、刈り取っていく勇気がわいてくるはずである。

(2) 徴兵を受けて入営するまでの六年間、私は新宿周辺でさまざまな勤労をした。新聞配達をすれば、ただちにその環境にとけこみ、誰もがまねられないような最上の配達をした。配達先の玄関を見て、はきものが乱れておれば整頓した。

環境に順応するとは、無為無策のまま慣れてしまつていつことではない。そこに生きがいを感じ、歓喜を見いだしていくことである。その時その時の生き方に誠を凝結することである。すると思わぬ知恵がわいてくる。仕事の仕方にも人の意表をついた工夫が生まれてくる。

環境に不平不満を持っている場合は、いつまでもその環境から卒業できない。

(3) たまに新しい下駄をはいておいでだと思つていると、すぐ人にあげてしまい、ご自分はいつも古い草履のような下駄をはいて。

出居 そうだね。袴もはいていたが、袴と  
いつだけのことで、セル地のヨレヨレになつた見苦しいものでね。

それに、来るたびに財布をはたいて娘にお小遣いだと言つてくださり、歩いてお帰りなんですよ。

出居 そついつこともあつたかね。

お宅に伺いますと、お米をたかないで、大鍋にジャガイモが煮てあつたり、パンの切れ端を食べていたりのお暮らしの中でも、私たちにはあるだけのものを出して喜ばせて下さつたものです。数々のご恩は忘れようがありません。

(以上、出居清太郎先生の言葉から)

1 起きたことは変えられない

世の中、いろんなことが起きます。自分

の身にもいろんなことが起きます。その起きたことを、起きなかつたことにすることはできません。また違った形で起きたことにすることもできません。自分の投げ込まれた環境、自分の身に起きた出来事、投げつけられた言葉も、自分にとってマイナスであり、理不尽に思えることでも、そのことと自体を変えることができないことは、誰もがわかつていることでしょう。

## 2 何事もよい結果につなげることができきる

誰でも、自分の身に起きたことに対して、それぞれにさまざまな対応をしています。喜んだり、落ち込んだり、前進したり、反発したり、無視したり。

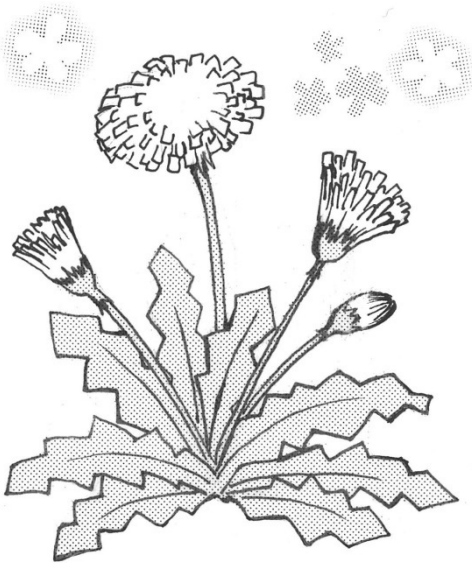
その対応の仕方によっては、悪い状況が

ますます悪くなつたり、よい状況も逆に悪い状況になつたりします。

しかし、いかなる状況・出来事もよい結果につなげていくことができます。

## 3 よい結果につながる生き方は誠を捧げるといふ生き方

目の前の人に対して、その人がいい気持ちになるように、元氣が出るように、言葉



カト・齋藤啓子

をかけ、自分の体を動かすようにする。その人の役に立つことで、自分にできることがあるればそれをする。その人のことを批判したり、悪意をもって接するのではなく、思いやる気持ちをもって、温かく接していく。我勝ちに、われ先にはなく お先にどうぞという謙虚な気持ちで、他の人が幸せになる手助けをしていく。

そういうことが誠を捧げる生き方ではないでしょうか。

そのように、他の人の幸せ実現のために役立っていくこと、そのことがすなわち自分の幸せにつながっていきます。

## 編集後記

本誌が通巻一〇〇号となりました。いつの間にも！ 驚きです。創刊号を出したのは平成元年の4月でした。その時以来長く応援していただいた故出居茂先生のお顔が浮かびます。その他多くの皆様のお世話になりながら続けて来られました。感謝です。今回、頁数を減らし、体裁も少し変えました。ご愛読・ご活用いただければ幸いです。

次号は10月1日発行です。(H・Y)

平成27年3月1日発行 ふゆのあり663号付録 ふらす α 平成27年春号(通巻100号) 編集人 山本博也

発行所 〒170-0011 東京都豊島区池袋本町3-11-1 修養団捧誠会壮青少年委員会 TEL03-3397-11493